

桂小五郎 年表

年号	事項
1833年（天保四年）	藩医和田昌景の子として生まれる。
1840年（天保十一年）	桂家の末期の養子となり、家督を継ぐ。
1849年（嘉永二年）	吉田松陰に師事。
1852年（嘉永五年）	江戸に遊学し、神道無念流齋藤弥九郎道場に入門。翌年には塾頭となる。
1853年（嘉永六年）	江川太郎左衛門に洋式兵術を師事。
1858年（安政五年）	江戸藩邸大検使となり、江戸番手を命じられる。
1859年（安政六年）	同志らと共に吉田松陰の遺体を埋葬する。江戸藩邸の有備館用掛に就く。
1860年（万延元年）	水戸藩の尊攘派と丙辰丸盟約を結び尊王攘夷運動に参加。 (高杉晋作、久坂玄瑞らと並ぶ尊皇攘夷派のリーダーとなっていったが、その一方で坂本龍馬、勝海舟といった開明派とも親交を持った。)
1862年（文久二年）	京都留守居役として上洛。 藩命により公卿や他藩との折衝に当たる。
1863年（文久三年）	直目付に命じられる。 京都・神戸において、勝海舟に会う。
1864年（元治元年）	禁門の変敗北により、但馬に逃れる。 身をやつて二条大橋の下に潜む桂のもとに、木戸松子(幾松)がにぎり飯を運んだという有名なエピソードがある。
1865年（慶応元年）	藩命により下関へ行き、坂本龍馬と出会う。木戸貫治と改名。
1866年（慶応二年）	薩長同盟。 木戸準一郎と改名。
1867年（慶応三年）	大政奉還。 王政復古の号令。
1868年（明治元年）	総裁局顧問。 外国事務掛兼務。 版籍奉還建言。 五箇条誓文の草案を起草。
1869年（明治二年）	版籍奉還。 これによって封建領主制の改革を実現する。 この前後、国家統一の政略として征韓論を主張した。
1871年（明治四年）	廃藩置県を断行。 全権副使として岩倉具視と共に渡米。
1873年（明治六年）	帰国。 憲法制定を建言。 西郷の征韓論に内治優先を理由に反対。 西郷を下野させたが、大久保の征台論に反対し自らも下野。
1874年（明治七年）	大久保の唱える台湾出兵に反対して参議を辞す。 宮内省出仕となり、明治天皇を補佐。
1875年（明治八年）	大阪会議。 再度参議に就く。 元老院章程草案作成に参加。
1877年（明治十年）	五月二十六日京都で死去。 享年45歳。 西南の役。 西郷隆盛自殺する。